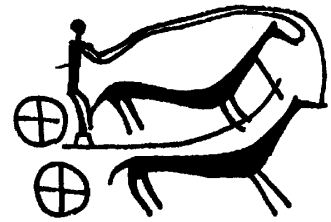


センターニュース

Hokkaido University
Center for Research and Development in Higher Education

北海道大学高等教育機能開発総合センター

Newsletter No. 52



全学教育委員会報告

(3 ページ)

「インターンシップセミナー2004」開催

(6 ページ)

総長補佐会にて 高大連携への全学的な支援を要請

(7 ページ)

(詳しい目次は裏表紙にあります)

巻頭言 FOREWORD

北大，そしてセンターへの思い

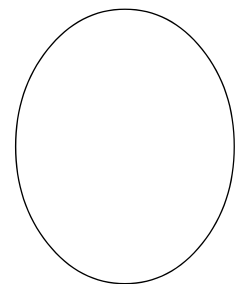
生涯学習計画研究部長 徳田 昌生

本年3月31日に定年退官となりますが、尊敬ができて信頼できる先輩諸先生や同僚ならびに心の優しい優秀な研究室学生、あるいは管理運営上お世話になった事務職員などに囲まれ、非常に楽しく、また充実した形で過ごさせていただきました。思えば、1960年4月に初めて海を渡って北大に入学し、大学院修士課程を修了後直ちに助手になり、教官として38年間、学生時代を合わせると合計44年間を北大一筋で歩んできたこととなります。北大とそれを取り巻く北海道の大自然を愛し、日本や世界をリードする北大であることを願ってささやかながらその方向を目指して進んできた38年間であったと思っておりま

私の北大在職中の最後の10年間は、高等教育機能

開発総合センターとかなり深く関わっていたと思っております。ご承知の通り、同センターは、学部一貫教育体制となった時に一般教育の実施や大学入学時から大学院までの教育及び大学と社会との連携教育などを研

究するために1995年4月に設置されました。全学教育の企画・調整を行う「全学教育部」、高等教育のあり方に関する研究を行う「高等教育開発研究部」、生涯学習に関する研究を行う「生涯学習計画研究部」及び入学者選抜に関する研究を行う「入学者選抜企画研究部」の4部から構成されております。私自身は、1995



～96年度に全学教育委員会委員，2002～2004年にはセンター長補佐と全学教育委員会委員や全学教育・教養科目（一般教育演習）責任者，また2001年度は教務委員として，全学教育に関する論議や実施に携わってきました。

高等教育開発研究部関係では，設立の1995～1996年度の2年間学内研究員として学部一貫教育のあり方や理科基礎実験について検討を行い，その後も同研究部主催のシンポジウムなどに参加して全学教育のあり方について考える機会をもつことができました。学部一貫教育のあり方に関するプロジェクト研究会では当時の丹保総長が多忙の中毎回出席され，北大の全学教育と学部一貫教育について熱意を込めて議論されていた姿を思い出します。

入学者選抜企画研究部との関係では，かなり早い段階から推薦入試やAO入試のあり方などに関する委員会や研究会活動に参画し，入試のあり方や高校との接続について考える機会がありました。この関係で何よりもうれしく思っていますことは，北大オープンユニバーシティの定着であります。総長補佐であった時に丹保総長から高等学校との接続について考えるよう指示があり，他大学の調査なども行った結果，高校生に対して毎年決められた時期に全学同時に大学開放を行うことを提案いたしました。高校生には，受験雑誌やパンフレットあるいは偏差値などだけで志望先を決めるのではなく，北大の様々な学部や研究室を訪問して先生や先輩から直接話を聞き，また先端的研究装置などにも触れて志望先を決定して欲しいと思ったからであります。部局長会議で提案を説明した時には全学一斉に行うことについての疑義や意見などが出されましたが，最終的には各先生の協力を得てオープンユニバーシティを開始することができました。

現在ではほぼ定着し，毎年8月の第1月曜日に約4200人の高校生が北大を訪れ，学部訪問や体験入学などに参加して志望決定の参考としているようであります。北大のすばらしいキャンパスで学ぶ喜びを感じ取り，意欲のある多数の高校生が北大を志望されることを願っている次第であります。

生涯学習計画研究部は，私が2002年4月から2年間研究部長を務めさせていただいた関係上，非常に深く関わってきました。同研究部には3人の専任教員と客員教授がいますが，広い意味での生涯学習に関して様々な角度から取り組んでおります。在校生に対しては，生涯学習者の育成という観点から特別講義「大学と社会」やキャリア教育科目の開講，及びインターンシップの推進などを行っております。一方，教育における地域連携や地域貢献も重要な課題であり，全学企画の公開講座の開講，行政及び大学の生涯学習関係職員やNPO・ボランティアリーダーの育成，道民カレッジやさっぽろ市民カレッジへの協力などを行っています。

センターと私自身の関わりについて長々と述べてきましたが，全学的立場で教育の立案と実践を行い，さらに教育を通して地域貢献を行っているセンターの役割は，法人化後の北大において益々重要になるであろうと思っております。センターの全学教育部と3研究部がお互いに協力し，益々強い連携をもって全国の範たる全学教育体制を構築して行って欲しいと願っております。本学のように全学教育部と研究部が協力してセンターを形成している例は全国でも極めて希であると聞いており，北大の特長を強くアピールできるところと思っております。

北大が今後教育を通して地域貢献を果たして行くためには，地域との窓口になるリエゾンオフィスが不可欠と考えております。研究面での地域連携や産学官連携は先端科学共同センターや知財本部あるいはTLOなどによって進められていますが，教育面での地域連携は個々の教員に依存しているのみで組織としての取り組みが明確ではありません。生涯学習研究部では地域リエゾンオフィスの設置を考え提案したこともありますが，未だ実現しておりません。高等教育開発研究部や入学者選抜企画研究部においても地域との関係は益々深くなることが予想され，また札幌や道内から教育や人材育成面における北大への期待が益々大きくなることが予想されますので，北大における窓口機能を果たすリエゾンオフィスの設置を是非実現して頂きたいと願っております。

全学教育

GENERAL EDUCATION

全学教育委員会報告

12月10日(水)に第53回(平成15年度第5回)全学教育委員会が開催され、つぎのような議題について話し合いました。

議題1. 北海道大学全学教育科目規程の一部を改正する規程(案)

議題2. 北海道大学全学教育科目責任者等に関する要項の一部を改正する要項(案)

議題3. 平成16年度全学教育科目に係るTA

議題4. 平成12年度以前入学者に対する全学教育科目振替表

議題5. クラスアワー

報告事項1. 平成16年度全学教育科目の開講

報告事項2. 全学教育科目(平成15年度第2学期)の履修者数

報告事項3. 全学教育科目(平成15年度第1学期)の成績評価分布状況

報告事項4. 平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」

インターンシップ科目と新たな基礎科目の新設

議題1では、インターンシップ科目と新たな基礎科目(基礎物理学, 基礎化学, 基礎生物学, 基礎地学)を設けるための規程(案)が了承されました。

議題2では、インターンシップ科目の担当責任者を高等教育機能開発総合センターに置くための要項(案)が了承されました。

議題3では、平成16年度全学教育科目に係るTAについて、必要理由・人数・経費などが報告され、センター運営委員会に諮ることになりました。

必要経費の見積額は2,512万円(平成15年度より293万円増)。平成15年度については、文部科学省からの示達額が急減したため、639万円の不足が生じ、各研究科と学内共通経費から拠出されました。

クラスアワー

議題5では、クラス担任へのアンケートの結果などが報告され、16年度からクラスアワーを本格的に実施することが了承されました。

平成15年度第1学期の成績評価分布状況の公表

報告事項3では、安藤センター長補佐から、平成15年度第1学期の成績評価分布状況及び、平成16年度も同じ科目を担当する場合はこの成績評価分布状況(%)をシラバスに記載するよう各担当教員に依頼したこと、成績評価の極端な片寄りをチェックするシステムについて今後検討することが報告されました。

報告事項4では、平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」の学内募集に関して、新たな理科基礎科目の取組について2~3年後に本申請を行う方向で応募することが報告されました。

(安藤厚 文学研究科教授・センター長補佐)

表1 2004(平成16)年度の学期毎の授業開講予定数一覧¹⁾

第1学期(授業期間 4月12日(月)~7月30日(金))

月	曜日	月	火	水	木	金	合計	備考
4		3	3	3	2	3	14	
5		4	3	3	4	4	18	
6		4	5	5	3	3	20	
7		3	3	3	5	4	18	
授業の合計		14	14	14	14	14	70	
7			1	1		1	3	補講期間
8		2	2	2	2	1	9	試験期間
合計		16	17	17	16	16	82	
9		1	1	1	1		4	集中講義期間

第2学期(授業期間 10月1日(水)~2月2日(月))

月	曜日	月	火	水	木	金	合計	備考
10		3	4	4	4	5	20	
11		5	4	3	4	4	20	
12		3	3	4	3	3	16	
1		3	3	3	3	2	14	
2								
授業の合計		14	14	14	14	14	70	
1~2			1		1	1	3	補講期間
2		2	2	2	2	1	9	試験期間
合計		16	17	16	17	16	82	

注) 1) 公の行事の日数は授業数から除かれている。

?6月3日(木)開学記念行事日, ?6月4日(金)大学祭, ?1月14日(金)センター試験の準備

表2 年度はじめの履修調整日程

月	日(曜日)	事項
2	下旬	学部学生に対し, 履修調整の実施及び履修届提出関係の周知
3	下旬	クラス担任会議(履修調整の実施, 新入生への周知)
4	7(水)	新入生オリエンテーション(履修調整の実施を文書で新入生へ周知)
	12(月)~13(火)	一般教育演習履修希望調書受付(共通教育掛) (大講義室及びS2講義室の履修調整も同時に実施)
	14(水)	一般教育演習履修希望調書データ入力及び結果出力
	15(木)~16(金)	一般教育演習履修許可一覧の掲示及び追加履修受付
	19(月)	論文指導講義の履修調整結果の掲示及び共通教育掛への通知期限
	20(火)~21(水)	履修届受付
	22(木)~26(月)	履修許可票の入力及び履修届データ入力(外注)
	28(水)	科目毎の履修者数リストの出力 講義室調整。収容不可の場合は電算により許可者決定
	30(金)	履修許可者名簿及び各授業科目の履修可能数一覧の掲示
	30(金)~5/6(木)	一般講義科目の追加履修届受付・入力
5	7(金)	履修届確認表及びエラーリスト出力
	10(月)	履修届確認表の配布
	11(火)~12(水)	履修登録修正・変更
	13(木)	履修登録完了

表3 2004(平成16)年度全学教育部行事予定表

	【日(曜日)】	【行事】	【備考】
4月	5(月) ~ 7(水) 7(水) 8(木) 9(金) 12(月) 20(火) ~ 21(水) 21(水)	定期健康診断【予定】 新入生オリエンテーション及び学部ガイダンス 入学式 学部ガイダンス 第1学期授業開始 1年次履修届受付 2年次以上履修届受付 追加認定試験成績締切	当該学部
5月			
6月	3(木) 3(木) ~ 6(日)	開学記念行事日 大学祭	休講 休講
7月	27(火) ~ 28(水) 及び30(金) 30(金)	補講日 第1学期授業終了	
8月	2(月) ~ 12(木) 13(金) ~ 17(火) 13(金) ~ 9月30(木) 26(木) 正午	定期試験 追試験 夏季休業日 定期試験及び追試験成績提出締切	
9月	中旬 ~ 下旬 27(月) ~ 30(木)	進級判定及び学科等分属手続 集中講義期間	当該学部
10月	1(金) 12(火) ~ 13(水) 13(水)	第2学期授業開始 1年次履修届受付 2年次以上履修届受付 追加認定試験成績締切	当該学部
11月			
12月	24(金) ~ 1月5(水)	冬季休業日	
1月	6(木) 15(土) ~ 16(日) 27(木) ~ 28(金) 及び2月1(火)	授業再開 大学入試センター試験【14(金)休講】 補講日	
2月	1(火) 2(水) ~ 15(火) 18(金) 正午 16(水) ~ 18(金) 21(月) 正午 25(金)	第2学期授業終了 定期試験 定期試験成績提出締切 追試験 追試験成績提出締切 北海道大学第2次試験(前期日程)【予定】	
3月	12(土) 上旬 ~ 中旬	北海道大学第2次試験(後期日程)【予定】 学科等分属手続	当該学部

「インターンシップセミナー2004」開催

近年、道内においてインターンシップを導入する企業や大学等が増加しており、その実施目的も多様化しています。道外の先進的な地域では、学生にプロジェクトなどを担当させたりする長期実践型のインターンシップを実施する企業なども増えてきています。

そこで、北海道地域におけるインターンシップの理解と関心を高め、より質の高いインターンシップの実施を促すため、長期実践型インターンシップを道内企業や学生に紹介することを中心テーマとしたセミナーを開催いたします。

今回のセミナーは、北海道地域インターンシップ推進協議会（事務局：北大）の事業の一環として、一層のインターンシップの普及促進を図るために実施するものです。多数の学生、教職員、企業の方々の参加をお待ちしています。

日時：2004年3月4日（木）13:30～17:00

場所：京王プラザホテル札幌3階「扉の間」

主催：北海道地域インターンシップ推進協議会、北海道経済産業局、(財)北海道地域総合振興機構（はまなす財団）

参加費：無料

内容：

1. 開会・挨拶

2. 講演

テーマ1

「インターンシップの現状と新たな方向
長期実習のあり方を探る」

岡本 博公 氏

（同志社大学商学部教授，

本学高等教育機能開発総合センター客員教授）

テーマ2

「ベンチャー企業における長期実践型インターンシップの魅力と可能性について」

山内 幸治 氏

（NPO法人ETIC.事業統括ディレクター）

3. 事例発表

(1)道内企業

(2)道外企業

(3)学生

問い合わせ先

高等教育機能開発総合センター

生涯学習計画研究部助教授 亀野 淳

tel&fax：011-706-6928

e-mail：jkameno@high.hokudai.ac.jp

入学者選抜

ADMISSION SYSTEMS

総長補佐会にて高大連携への全学的な支援を要請

平成16年2月2日(月)10時から事務棟本館第一会議室にて行われた総長補佐会(座長は中村総長)において、高大連携に対する全学的な支援の必要性を要請し、法人化後の教育推進室(仮称)において引き続き検討していくという回答を得ました。

総長補佐会において検討を要請した事柄は以下の2点です。(1)毎年全学部から北大セミナーへ講師を派遣、(2)高大連携活動の企画・運営を行う全学的な組織の発足。北大セミナーとは地域間の北大に関する情報格差を解消するために、北大の教員が地域に出向き、高等学校を会場にして、その地域の高校生、その保護者、高校教員、一般市民等に北大の研究および教育に対する取り組みを知ってもらうというものです。

これらの要請の背景には、北大としての入試広報の効率化を図る必要があるからです。例えば、平成15年度に北大を訪問し、アドミッションセンターが取りまとめた上で学部等へ対応を依頼した高等学校は約50件で約3800名に上ります。これに加え、本学の教員が高校へ出向いて行う講演等も相当数になると推測されます。こうした高大連携活動の効率化を図ることは、法人化後の適切な進路指導に基づく優秀な学生や受験者数の確保において、重要な役割を担うと考えられます。

アドミッションセンターでは、高大連携活動の効率化を図るための戦略として、以下の3つの柱を検討しています。

1. 北大から出向く高大連携の効率化

北大セミナーの拡充と充実化を図り、特に道内に

対する高大連携活動の一本化を図る。進路指導の支援という観点から、少なくとも数年で各地域に対して全学部の紹介ができるよう取り組んでいく。

2. 北大に来る高大連携の効率化

平成15年度から正式に開始された北大キャンパスビジットプロジェクトにおける、学生ガイドによるキャンパスツアーを拡大する。北大を訪問してきた高校生等はできるだけこのキャンパスツアーで対応できるよう、学生ガイドの拡充を図る。

3. インターネットによる高大連携の効率化

上記1, 2の取り組みは単発的なものであり、参加者の学ぶ意欲を持続させるためには、継続的な学ぶ意欲の喚起が必要となる。こうした継続的な学ぶ意欲の喚起のために、ホームページやメールマガジンを利用したインターネットコミュニティの立ち上げを検討する。

これらを確認していくにあたり、緊急の課題である、北大セミナーへの全学的な支援、そして、これら3つの柱を推進していくための全学的な組織の発足を要請しました。総長補佐会では、教員が母校等へ出向いて説明するためのガイドラインの作成、学生の活用、同窓会との連携、オープンキャンパス・体験入学の整理、保護者の意識改革など、高大連携に対する活発な議論がなされました。

アドミッションセンターでは、これらの議論を踏まえて、今後も実効性のある高大連携の効率化を検討していきます。

北大キャンパスビジットプロジェクト（北大CVP）

平成15年度の活動報告と平成16年度の活動計画

アドミッションセンターは学生ボランティアとともに「北大キャンパスビジットプロジェクト」（学生代表：文学部一年・渡辺ゆみ）を立ち上げ、社会に開かれた大学創りの一環として、高校生や一般市民を主な対象に札幌キャンパスにおけるツアーを実施してきました。平成15年度は、高校生等延べ約550名、一般市民延べ約360がこのツアーに参加しました。参加者には大変好評であるとともに、ガイドを行う学生にとっても教育的効果が高く、意欲的に取り組んでいます。

次年度は以下のような活動を展開していきたいと考えています。

1. 学生生活や研究・教育活動を体感できるようなツアーの企画と実施
2. AO入学者の集いの立ち上げとAO入学者を対象としたツアーの実施
3. 北大CVP函館支部の立ち上げと函館キャンパスにおけるツアーの企画と実施

4. ノーステック財団を中心とした北キャン町内会との連携拡大による北キャンパスツアーの企画と実施
5. 学内の教員および学生を対象としたツアーの企画と実施
6. 一般教育演習「北大への招待」との連携によるガイド養成
7. ホームページの刷新とネットコミュニティの構築
8. 同窓会との連携によるツアーの企画と実施

平成15年度に北大を訪問した高校生等のうち、キャンパスツアー以外で各学部等に対応をお願いした人数は延べ3000名を超えます。北大CVPでは上記のような取り組みを通じて各学部の負担を極力軽減していきたいと考えています。そのためには全学的な支援が必要となりますので、どうか北大CVPに対するご理解とご協力のほど、お願い申し上げます。

センター日誌

CENTER EVENTS, December - January

12月

- 2日 ・ (会議) 第29回教務委員会
- 4日 ・ (訪問) 札幌南高校来学
- 5日 ・ (会議) 第4回教務情報新システム検討WG
・ (会議) AO入試委員会
- 6日 ・ AO入試合格発表
- 8日 ・ (会議) ITを用いた広報戦略研究会
(情報教育館)
- 9日 ・ (会議) センター教官会議、センター長連絡
会
- 10日 ・ (会議) 第53回全学教育委員会
・ (会議) 第6回教務委員会教育戦略推進WG
- 11~17日 ・ AO入試合格者入学手続き
- 12日 ・ (会議) AO入試の選抜形態に関する研究会
(情報教育館)
- 15日 ・ (会議) 第22回高等教育開発研究委員会
- 16日 ・ (会議) 第12回教務委員会教育システム弾力
化検討専門委員会
・ (会議) 第23回教務委員会教務情報システム
専門委員会
- 18日 ・ (会議) 第109回全学教育委員会小委員会

- 19日 ・ (会議) 第1回生涯学習計画研究委員会公開
講座実施部会
- 21日 ・ (行事) 難関大学フェア2003 in 名古屋
- 22日 ・ (会議) 第4回教育課程専門部会
- 23日 ・ (行事) 難関大学フェア2003 in 大阪
- 24日 ・ (会議) 第49回センター運営委員会
- 25日 ・ (行事) 難関大学フェア2003 in 東京
・ センターニュース第51号発行

1月

- 13日 ・ (会議) センター教官会議、センター長連絡
会
- ・ (訪問) 京都府立嵯峨野高校来学
- 17~18日 ・ 大学入試センター試験
- 20日 ・ (会議) 第5回教育課程専門部会
- 22日 ・ (会議) 第110回全学教育委員会小委員会
- 23日 ・ (会議) 第13回教務委員会教育システム弾力
化検討専門委員会
- 30日 ・ (会議) 第4回学生編成専門部会
- 31日 ・ (行事) 光星高校父母懇談会

行事予定

SCHEDULE, March - July

	【日(曜日)】	【行事】	【備考】
3月	12(金) 中旬 ~ 下旬	北海道大学第2次試験(後期日程)【予定】 学科等分属手続	当該学部
4月	5(月) ~ 7(水) 7(水) 8(木) 9(金) 12(月) 20(火) ~ 21(水) 21(水)	定期健康診断【予定】 新入生オリエンテーション及び学部ガイダンス 入学式 学部ガイダンス 第1学期授業開始 1年次履修届受付 2年次以上履修届受付 追加認定試験成績締切	当該学部
5月			
6月	3(木) 3(木) ~ 6(日)	開学記念行事日 大学祭	休講 休講
7月	27(火) ~ 28(水) 及び30(金) 30(金)	補講日 第1学期授業終了	

センターニュース 2004, No. 52 目次

<p>巻頭言 徳田 昌生 1</p> <p>全学教育委員会報告 3</p> <p>2004 (平成16) 年度の 学期毎の授業開講予定数一覧 4</p> <p>年度はじめの履修調整日程 4</p> <p>2004 (平成16) 年度 全学教育部行事予定表 5</p> <p>「インターンシップセミナー2004」開催 6</p>	<p>総長補佐会にて 高大連携への全学的な支援を要請 7</p> <p>北大キャンパスビジット プロジェクト (北大CVP) 平成15年度の活動報告と 平成16年度の活動計画 8</p> <p>センター日誌・行事予定 9</p> <p>目次・編集後記 10</p>
---	--

編集後記

今年の出張は、雪害とぶつかることが多い。

先日は千歳空港まで7時間もかかってしまった。さらに、臨時便空席待ちの群々...。しかし、行くしかない。

学力低下、不登校の増加が日本の教育に蔓延して久しい。しかし有効な手立ては打たれていない。評論は簡単である。今求められているのは、具体的なプランの提示と実行のほうである。

深夜、羽田にたどり着いたカプセルホテルの湯船で、偶然にも研究の先輩と出会った。それは、まさに実のある研究談義となった。

動かなければ、始まらないのである。(うさぎ)

センターニュース 第52号

(北海道大学高等教育機能開発総合センター広報誌)

発行日：2004年2月25日

発行元：北海道大学高等教育機能開発総合センター

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目

電話 (011)716-2111 ・ FAX (011)706-7854

編集委員：小笠原正明・西森敏之・細川敏幸・

町井輝久・安藤厚・山岸みどり・鈴木誠・

池田文人・亀野淳

ご意見、お問い合わせは 印の編集委員まで

電話：(011)706-7514; FAX (011)706-7521

インターネット ホームページ：http://infomain.academic.hokudai.ac.jp/center